平内好子さんを偲ぶ

青木淳一
横浜国立大学名誉教授

Memory of late Yoshiko Hirauchi

Jun-ichi Aoki

テレビの画面に、あのにこやかなお顔が映し出され、その下に「平内好子さん（61）死亡確認」の文字が現れた時、「ああ、やっぱり、ダメだったのか」と深いため息が漏れました。一時は救出されたという報道もあっただけに、そのショックは多くの皆さんの心に伝わったことでしょう。平内さんが所属していた日本ダニ学会、日本土壌動物学会、富山県生物学会の会員たちも、平内さんを失ったことを、どんなに悲しんだことでしょう。当時の菅総理大臣ですら、平内好子さんのお名前を挙げてお悔やみの言葉を述べられたことが強く印象に残っています。

私が横浜国立大学にいたころ、標本や文献を調べるために何度も大学の研究室に足を運ばれました。そして、校長先生の激務からやっと解放され、さあ、これからダニの研究に打ち込めると聞かされたのち、すぐに若い生徒たちに混じって外国語学校に入学され、ササラダニの記載に必要な英語の読み書きや外国を訪問した時の会話に磨きをかけようとされた向上心と勇気は見上げたものでした。

平内さんはプロの学者ではないにしても、ササラダニ類の分類学の世界においては充分専門家として認められる研究者でした。正確なスケッチを描く才能、確かな記載文を記述できる英語の力、それに何よりも大好きな立山連峰の自然の中でダニを採集する楽しみを持っておられました。そして、すでに8種ものササラダニの新種を発見し、学界に発表されていたのです。そして、9種目の新種記載の準備された原稿が私の手元に残りました。富山県婦負郡山田村の山中で元富山県科学博物館長の布村昇さんと一緒に、森の落ち葉の中から採集した可愛らしいタテイレコダニ科の一種の新種記載論文の原稿でした。平内さんの希望により、新種の名前は布村さんに捧げ、学名 *Indotritia nunomurai* Hirauchi & Aoki、和名ヌノムライレコダニとなりました。この論文は私と共著になっており、これはなんとかして学会誌に発表し、平内さん亡き後でも日の目を見させなければと推敲を重ね、昨年5月に日本ダニ学会に投稿しました。そして11月25日に学会誌に印刷公表されました（図1）。

論文の第1頁の脚註には「著者の一人、平内好子さんはニュージーランドのクライストチャーチにおいて2011年2月に起きた強い地震によって亡くなりました。これは彼女の最後の論文となります」と英語で書いてあります。心から、ご冥福を祈ります。

J. Acarol. Soc. Jpn., 20(2): 103-107. November 25, 2011
© The Acarological Society of Japan http://acari.ac.affrc.go.jp/

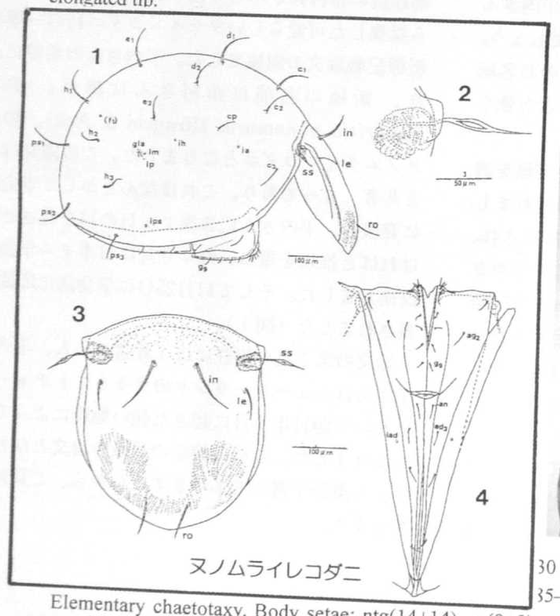
New Species of the Genus *Indotritia* from Central Japan (Acari: Oribatida)

Yoshiko HIRAUCHI[1†] and Jun-ichi AOKI[2]

[1]*Namerikawa High School, 45 Kashima-cho, Namerikawa City, Toyama,936-8507 Japan*
[2]*3-8-12 Nishi-Azabu, Minato-ku, Tokyo, 106-0031 Japan*
(Received 31 May 2011; Accepted 9 June 2011)

ABSTRACT

A new oribatid mite of the family Oribotritiidae, *Indotritia nunomurai* sp. nov., is described from litter and soil layer of *Cryptomeria japonica* forests in Toyama Prefecture, Central Japan. The new species is readily distinguishable from the congeners by the spindle-shaped sensilli with elongated tip.



30 μm (mean 461 μm); length of
35–670 μm (mean 566 μm).
Elementary chaetotaxy. Body setae: ntg(14+14); g:(9+9); ag:(2+2); an (1+1, exceptionally

† One of the authors, Mrs. Yoshiko Hirauchi, was died in Christchurch in New Zealand suffered the heavy earthquake occurred in February, 2011. The present article become her last scientific paper.

DOI: 10.2300/acari.20.103

図1　ササラダニの一種の新種を記載した平内・青木の共著論文の第1頁と附図、平内さんの写真を合成したもの

土壌動物に魅せられた平内好子さん

新島溪子
元 森林総合研究所

Memory for late Ms. Yoshiko Hirauchi

Keiko Niijima

平内好子さんと知り合ったのは、私が土壌動物学会事務局の庶務を担当していたときである。1989年4月19日付けの手紙で、「ほんの2～3ヶ月前から土壌動物に興味をもち、高校の同級生の布村さんから紹介された」と書いてある。「学校と、家庭の仕事の合間をぬって……ですから、どこまでやれるものやら、全く自信がないのですが、まあ、退職まで約20年ありますから、少しずつでもやっていきたいと思います」と続いている。第12回日本土壌動物学会大会は栃木県立博物館で5月13－14日に行われた。その大会に参加された感想を平内さんは次のように書いている。「こんな楽しい会に仲間入りさせてもらえてよかったなあと思います。本当に“どろのむし”というものはゾクゾクするような魅力的なものですね。」続いて11月16日付けの手紙では「今年の夏、思いきって三眼の実体顕微鏡と三眼の生物顕微鏡を買ったんです。夜、顕微鏡をみている私に向かって、中三の娘が『お母さん、良かったねえ、老後の楽しみがちゃんとみつかって！』と言ったんですよ。まさにその通りです」とある。12月には直接土壌動物の実習を受けたいとの申し出があり、翌年2月に3日間、茨城県つくば市の研究室に来ていただいた。大型土壌動物の調査と小型節足動物の抽出法、それにトビムシ類の分類・同定について新島が、ササラダニ類を専門家の福山氏が担当した。森林総合研究所では毎年複数の研修生を受け入れ、さまざまな講習や実習を行っているが、その中で、平内さんの熱心さは群を抜いていた。あらかじめ関連図書を読み、自分なりにいろいろ工夫して調査や観察を行っていたので、数多くの疑問や質問をかかえていた。実習によってその一部が解決したようで、平内さんとの3日間は、受け入れ側にとっても充実したものだった。

その後の平内さんの活躍は眼を見張るものであった。最初に、富山県高等学校生物教育研究会編の「生物実験」の表紙にササラダニの写真を掲載し、次いで土壌動物検索図のイラストを全部カラー写真に置き換えて、さらにわかりやすいものにした。仲間に声を掛けて土壌動物調査を行い、1991年には「アルペンルートの自然　立山」の中に「落葉の下の世界」と題してカラー写真入りの調査結果を公表している。それらの印刷物が出版されるたびに、平内さんは、はじけるような喜びに満ちた声で「ねえ、見て、見て！こんなんができたんよ！」と報告してきた。平内さんの調査はさらに精度を増し、ダニやトビムシの種組成に言及するようになった。そしてついに、ササラダニの新種記載を行ったのである。

これら一連の活動が評価されて、2001年度の日本土壌動物学会研究奨励賞を受賞された。受賞が決まった時、平内さんは受け取るのを固辞された。理由は「私のような新参者にこのような賞を受け取る資格はない」とのことであった。評議員だった私は「研究奨励賞は業績というより、むしろこれからの活躍が望まれるという意味があるので、ぜひ期待に応えてほしい」とメールを送った。このとき以降、平内さんと私との交流が頻繁になった。私がキシャヤスデ類の分布調査をしていると伝えると、平内さんは富山県内で採集したヤスデ類を多数送って下さった。また、ブナの結実調査をしていた平内さんの研究仲間から、太平洋側の